

事業名	発達障害で悩んでいる方に対して、寄り添える人材の養成事業		団体名	NPO法人 人・ふれあい・ひろば			事業総額 (決算額)	¥1,200,447
			担当課	発達障害者支援センター「ひか☆りんく」				
NO.	評価項目	5	4	3	2	1	評価の理由	
		多くの成果を得られた	想定以上の成果を得た	概ね想定どおりだった	課題が残った	多くの課題が残った		
1	協働の相乗効果、波及効果は生まれましたか？	○					官民の協力による事業実施は、「迅速に・安心して」という状況が作られ、事業参加者、悩んでいる方、双方に対するアセスメントが有効に働いたと考えます。協働事業に取り組んでいる団体という安心感から、支援者支援の要請・講演会の依頼の広がり・事業者単独の相談会の開催・相談者の増加等、多くの効果が見られました。	
2	提案団体と岡山市の役割・責任の分担は当初の予定どおりに実行されましたか？	○					随時の連絡調整により、円滑に、充実した内容で実施することができました。	
3	協働事業のモデルとなることを意識して、今後につながる成果を生み出すことができましたか？			○			発達障害で悩んでいる方は、社会的孤立感を持つてることが判ると、安心して心を開いてくれました。この安心感は、今後の活動に対しても、大きなプラス要因になると思います。	
4	当初に設定された事業目標を達成することができましたか？			○			当初の養成目的人員は10名でしたが、全回出席できたのは、7名となりました。3名の方には、別途勉強会にて終了までの計画を立てております。	

事業名	発達障害で悩んでいる方に対して、寄り添える人材の養成事業	団体名	NPO法人 人・ふれあい・ひろば	事業総額 (決算額)	¥1,200,447
		担当課	発達障害者支援センター「ひか☆りんく」		
5	今後の展望について(NPOより)	今回養成された人材を、現実に即して活用できるようにすることが必要と考えております。引き続き人材の養成を行い、一人でも多くの寄り添える人材を養成していく予定です。発達障害のある当事者の方が、一般社会の中で不安なく過ごすことができるよう、学業、就労等の各場面で対応できるように寄り添える人材を確保し、取り組んでいきたいと思っております。官民双方の連携は不可欠と思っておりますので、モデル事業終了後も意見交換等、随時対応ができるように調整をして頂けたらと考えます。			
	今後の展望について(岡山市より)	行政が発達障害者支援を担うにあたっては、発達障害がある方への直接支援だけでなく、地域における支援体制も整え、関わっていく必要もあり、岡山市においても「地域支援体制」の整備を進めているところです。そうした中、不安を抱える方々が、「より身近で」「より早く」「きちんと寄り添える人」に相談できるような体制づくりも課題であり、そういった課題の解決を共に担っていただくことを期待しています。			
6	総評(ESD・市民協働推進センター)	「寄り添える人材」という、現行の制度施策の隙間から生まれた役割と専門スキルが官民協働で確立されたことにより、7名の人材養成と相談件数増加を導き、2年前までは埋もれていた、「発達障害で悩んでいる方のニーズを可視化することにも繋がりました。今後は、今年度作成した「寄り添える人材になるための手引き」が地域において普及・活用されることを促し、教育機関、地域住民組織等を始めとする関係機関との連携体制をより強化し、一人ひとりの多様な相談内容に協働のネットワークで応え、適切な機関へ繋いでいくことが求められると考えます。			
7	目標管理(ESD・市民協働推進センター)	達成できた目標		達成できなかった目標	
		<p>目標①「寄り添える人材」の養成・普及により、当事者への早期対応が可能な環境を整備する。</p> <p>結果①7名の修了者(今後、3名を追加して10名になる予定)が座談会の運営・補助を担うことで、座談会の回数・範囲が拡充されることが期待できます。また、新たに支援者となった人たち、これから支援者を目指す人たちに向けた「手引き」が完成したことで、今後の人材養成がさらに効率的に進められるようになりました。</p>		<p>目標①養成講座修了者数:10名</p> <p>結果①養成講座修了者数:7名</p> <p>想定される原因①日程の都合から全回参加が適わなかった参加者がいたが、事業終了後にアフターフォローを行う予定である。</p>	